

協働のまちづくり協議会（第4回）議事概要

- 《日 時》 平成28年7月21日（木） 午後2時～5時30分
《場 所》 中央保健福祉センター 地下1階 会議室
《出席者》 犬塚 裕雅 会長、文入 加代子 委員、杉浦 利彦 委員、長江 曜子 委員(途中退席)、牧野 昌子 委員、山崎 年也 委員、郡 正信 委員
《傍聴者》 0名（非公開）

1 開会

※欠席者報告・委員会定数確認、配布資料確認、諮問読み上げ

2 協働のまちづくり協議会 会長挨拶

3 議 題

(1) 平成29年実施分協働事業 第一次選考について

① 地域連携自主防災事業

協働事業として選定すべきであるとした。

《付帯意見》

地域内の市指定避難所が5ヶ所あるが、計上されている消耗品は避難所4ヶ所分となっていることから、具体的な避難場所を明記するとともに、その選定理由について明確な説明がほしい。

未加入の町会もあることから、担当課である危機管理課には、情報発信、情報提供の後押しを行い、成果の見える化に努めてほしい。

発行する小冊子の著作権を提案者と担当課のどちらが持つのかを協議すること。

《意見交換》

- ・参加していない町会への呼びかけを持続的に続けてほしい。(委員)
- ・栗ヶ沢地域だけでなく他の震災地域の話も聞きながらケーススタディーをすると、活きたマニュアルになるだろう。
自主防災組織であるとともに、他地域の被災地ボランティアの担い手にもなってほしい。(委員)

② 現役世代のIT活用市民参画支援事業

協働事業として選定すべきでないとした。

《選定しない理由》

ITを活用して、市民、特に現役世代を協働のまちづくりに巻き込むという点は評

価できるが、事業内容が手法の提示に止まっており、具体性に欠け、どのような課題が解決できるかという点が不透明であり、また、行政との協働の必要性が見い出せなかったため。

《付帯意見》

提案者が自主的に活動実績を松戸市内で作し、具体的な地域的課題を捉えてから行政に提示することが望ましい。

《意見交換》

- ・仕組みが考えられていないので、入口で終わってしまうのではないか。(委員)
- ・ITを使って現役世代を巻き込むことが狙いならば、もっと違うやり方が良い。(委員)
- ・市民活動助成制度に応募することも良いだろう。(委員)

③ 地域ねこ活動推進事業

協働事業として選定すべきであるとした。

《付帯意見》

事業内容を次の点について精査し、初年度の計画を担当課と共に組み立ててほしい。

また、担当課である環境保全課には、事業内容への理解を深めることができるよう、松戸市の実態を具体的に提示してほしい。

- ①事業の目的及び目標は、初年度時点で達成可能な実現可能性の高いものにする。
- ②動物愛護推進員は、法律上は松戸市に設置義務が無いこと。

《意見交換》

- ・まず周囲の関係者を巻き込むことが大事である。(委員)
- ・地域ねこのことを考えて深く事業をおこなおうとするならば、どこか地域を決めて、その中でどう取り組めば普及啓発に繋がるか検討するべきである。(委員)
- ・初年度はモデル地域でやってみてはどうか。(会長)
- ・目的③地域ねこ活動を通じた世代間交流については、ここまでやろうとすると混乱してしまうと思われるので、行政が行えば良いだろう。(会長)

④ 協働のまちづくり啓発・研修事業

協働事業として選定すべきであるとした。

《付帯意見》

会場を具体的に明記し、大学での開催を考えている場合は、当該大学との協働について言及してほしい。なお、会場費が有料になることも想定し、予算計上すること。

職員向けと市民向けでは、適当な開催曜日、時間帯、内容が異なることから、講演会の主たる対象が誰なのか、再考してほしい。

市民活動の体験は、参加者と受け入れ先の双方の認識が一致していなければ、必ず

しも良い結果にならない場合もあることから、体験が本事業に必要なかも含めて、担当課と協議してほしい。

《意見交換》

- ・マッチングは参加する側も、受け入れる側も大変な労力がかかるので、本当に必要かどうかを含めて整理し、行うのであれば確実に成果を得られるよう再検討したほうが良い。(会長)
- ・マッチングについて、行ったことがプラスに働くとは限らない。どのようなプログラムに職員を迎えるかというところまでよく考える必要がある。(委員)
- ・職員向けか市民向けか、対象をどちらかに絞るべきではないか。(委員)

⑤ 生物多様性地域戦略事業

協働事業として選定すべきであるとした。

《付帯意見》

千葉大学園芸学部への委託内容を精査して明確に示し、事業の担い手の役割分担を整理してほしい。

事業目的に照らし、講演会および観察学習会の位置づけを明確にすること。

《意見交換》

- ・専門的な調査や学術的な観点から検査してもらうための委託ということであれば、指導を受ける、監修をお願いするというやり方が普通ではないか。(会長)

⑥ 子どもたちがつくる青少年会館居場所事業

協働事業として選定すべきであるとした。

《付帯意見》

事業内容への理解を深めることができるよう、青少年会館ロビーにおける現在の利用実態を具体的に提示してほしい。

また、今までの子ども同士の関係を尊重し、事業に参加しない子どもたちの居場所がなくならないように留意してほしい。

《意見交換》

- ・子どもたちの活動を温かい目で見守って安全な場所を提供し、そこで子どもたちなりにいろいろな遊びをして関わりを持てば良い。
そこに子どもの想像力が生まれるだろう。協調性を持たないこともその人の個性であり、その中で皆がどう関わっていくか考えるほうが豊かである。(委員)
- ・青少年会館の利用実態がわからないので何とも言えないが、参加者10人という目標は低いのではないか。(委員)

(2) その他

4 閉会